＜全体分析＞

試験時間	120	分

解答形式
記述式

分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・[増加]）
難易（易化・やや易化・[変化なし]・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点
読解総合：英文和訳のみに変更
英作文：和文英訳，自由英作文（会話文空所補充問題に変更）

その他トピックス
読解問題においては，大問Ⅰ，大問Ⅱとも和訳問題のみとなり，2014 年度以前の形式に戻った形となった。英作文では 2021 年に出題された会話文下線部補充問題が再び出題された。大問Ⅲは前年度と同じくオーソドックスな和文英訳問題。「情けは人のためならず」という格言が絡んだ問題は 2017 年度，2021 年度に続く出題。

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	英文解釈	「情報過多の時代に生きる困難さと対処の仕方」(588 words)	(1)第１文は The＋比較級, the＋比較級の構文。we have more 'stuff' to think about and focus on が基本の構造。いわゆる have to *do* ではない点に注意。後半は devote less time to each particular thing が基本構造。第２文は be quick to *do* ; blame O for A がポイント後半は while S'V', SV.の対比を捉えることと not entirely の部分否定がポイントとなる。 (2) It isn't that SV..., but rather that ~「だからといって…というわけではなく，むしろ～である」という構造をつかむことが大前提。but rather 以降は as SV SV という構造で，２つの SV の間にコンマがないことに注意。with the result that ...「その結果…となる」は頻出表現。 (3)主語が長いので構造をしっかり把握すること。taking ... and weighing ...が動名詞主語となっている。the evidence と the pros and cons は同格関係にある。あとは help(V) O *do* を訳に反映させること。 出典：Jim Al-Khalili, *The Joy of Science*, 2022.	標準
Ⅱ	英文解釈	「意識とは何かを説明する難しさ」(725 words)	本問で扱われたのと同種のテーマは 21 年度実施の第１回京大入試 OP 大問Ⅰでも取り上げており，受験生にはなじみのあるテーマだったのではないだろうか。設問は下線部和訳問題のみで，下線部の構造自体はさほど複雑ではないが，一部訳しにくい表現が含まれているというのが全体的な印象である。 (1)　see A as B「A を B とみなす」の B の部分が節の形で書かれたパターンの訳出ではやや差がつくか	標準

© 河合塾　2023 年

			もしれない。これ以外は語句の知識の有無がポイント。profess to *do* はここでは「…すると告白する，公言する」の意味で，challenging は「骨が折れる，難しい」の意味。the uninitiated は「初心者」の意味だが，ここでは「ジャズをよく知らない人」という意味合い。 (2)　the very same は the same を強めた言い回し。who think that ...の関係代名詞節と呼応して，「…するまさにその～」という意味。claim to not know は claim not to know としても同義。those who ... ; claim to *do* ; quite a bit といった基本的な表現は確実に訳したい。 (3)　that to be ... to be you は The claim を同格的に説明する名詞節。for there to be ...は there be 構文を不定詞にした形で，ここでは「…があること」という意味。something it is like to be you は it is like to be you が something を先行詞とする関係代名詞節（関係代名詞自体は省略）で，it が形式主語，to be you が真主語となっている。something it is like to be you 全体は「あなたであるというのはこういうことであるという何物か」という意味合い。この点以外は，基本的には語句の知識の有無がポイント。circular「堂々巡りの」は見慣れない表現だったかもしれないが，文意全体を考えればおおよそ見当はついただろう。 出典：Barbara Gail Montero, *Philosophy of Mind: A Very Short Introduction*, 2022.	
Ⅲ	英作文	「情けは人のためならず」	2017 年度の「生兵法は大怪我のもと」，2021 年度の「転ばぬ先の杖」に続いて，ことわざを扱った問題が出題された。2019 年度以降長文化が進んでいたが，2023 年度は４行と少しの問題文の出題であった。一読すると英訳しやすい問題に見えるが，日本語の論理で書かれた文章なので，英文としての論理に従った英文にまとめようとすると難しい。「損得勘定で動く」「便宜を図る」「恩に報いる」「人の世の真理を突いた言葉」，そして「情けは人のためならず」などは工夫して英訳したいところ。	標準
Ⅳ	英作文	「うそをつくこと」	毎年出題形式の変わっている自由英作文問題であるが，2023 年度は 2021 年度の形式に似た語数指定付きの対話文の空所補充問題が出題された。人を傷つけないためにつく white lie の具体例に加えて，宿題を忘れた際につく white lie の具体例などが問われている。前後の対話内容をきちんと読み取り，書くべき内容を外さないこと。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」
難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2023 年

＜学習対策＞

読解問題では今年度は英文和訳問題のみの出題となったが，この傾向が次年度以降も続くかはまだわからないので，今後とも下線部和訳と内容説明問題の融合型の出題となる可能性を考慮に入れて，和訳だけに偏らずバランスの取れた学習を心がけること。内容説明問題では，該当箇所をどこまで正確に読むことができたか，そしてどこまでを解答に盛り込むかが問われる。該当箇所がほぼパラグラフ全体に及ぶ問いが出題されることもあるが，単なる要約問題ではなく，問題文の要件に合致する記述を抜き出す必要がある。英作文では大問Ⅲは英訳問題で定着した。過去問の英訳問題の練習を含め，各人の実力に合わせた演習を積む必要がある。自由英作文問題は，昨年度が意見論述型，一昨年度が今回と同じ会話文下線部補充問題，その前年度が手紙の形式と，形式が固定されていない。さらに形式が変わる可能性は十分にあるので，形式にこだわらず，さまざまな形式の問題に触れ，実際に答案を作る演習をすることをすすめる。これまでの自由英作文の出題は「前後関係を見据えた上での書くべき内容の確定」「状況，人物関係に応じた表現の選択」が問われることが多いので，その点に留意して演習を積んでほしい。

© 河合塾　2023 年